

不正リスクに対する感度向上に向けた牽制機能の強化

- 浜岡原子力発電所の地震動評価における不適切な選定方法等に関し、過去原子力本部内では、規制審査にて説明するよう複数回指摘がありましたが、それを反映することができませんでした。また、内部監査部門（経営監査部）における**不正を起こす観点への着眼意識の薄さをはじめ、以下の全社 1 線から 3 線まで含めた不正リスクを検知し防ぐ仕組みの実効性や専門性の高い技術的な視点が十分ではなかったことが**本事案を止められなかった要因の1つと認識しております。
- そこで、業務執行を担う各部から**独立した立場で品質保証活動の実効性の確認・評価等を行うため、原子力品質保証機能を強化・統合**します。
- 併せて、内部監査では、**網羅的なリスクを把握**するとともに、客観的な視点を入れるため、新たに**外部アドバイザー活用**の仕組みを取り入れることで、監査品質を向上させ不正を起こさせない組織づくりを目指します。

全社第3線：経営監査

- ・ルールへの準拠性に加え、ルールの過不足や仕組みそのものに重点を置いた監査
- ・経営監査を各部門の次世代人財のローテーション先として位置づけ
- ・網羅的なリスクの把握
- ・外部アドバイザー活用の仕組み導入

モニタリング

全社第2線：リスクマネジメント

- ・性弱説の観点を取り入れた不正リスク管理の強化
- ・組織課題の解消に向けたカウンセリング
- ・就業規則における罰則規定等の明確化

検証・支援

全社第1線：原子力安全推進本部※（注1）

- ・ガバナンス・牽制・支援（品質保証）機能の強化 原子力本部内に原子力ガバナンス推進部の設置、品質保証機能を強化・統合※（注2）
- ・業務執行部署 業務プロセス総点検、倫理・業務プロセス等の教育徹底

3
線
防
護
の
取
り
組
み
強
化

不正リスクに対する感度向上に向けた牽制機能の強化（内部通報への対応強化）

- 2019年の第1回ヘルプライン通報では、原子力部門の意見に押し切られる形で適切な対応がとれなかったこと、2021年の第2回ヘルプライン通報では、浜岡原子力発電所の地震動評価における不適切な選定方法等についての指摘があったものの、原子力土建部がヘルプライン事務局に対して実態と異なる報告を行い、事務局がこれを見抜けず、結果として不十分な調査となったことから、不正の発見・是正に至ることができませんでした。
- そこで、内部通報への対応強化策として、以下の対策を講じてまいります。
 - 事案の内容・重大性に応じてより適切・慎重な調査・対応を行うため、**不正調査等を専門とする外部弁護士等を活用して相談窓口を再構築**するとともに、調査方針や調査結果等については外部弁護士や監査等委員も構成員となる**重大案件会議に付議する等、複数の目で慎重な議論・判断**を行います。
 - 浜岡原子力発電所の審査再開時には、**原子力審査専用の窓口を設置**します。
 - より厳格な中立性が求められる案件に対応できるよう、**執行側から独立した監査等委員会に窓口を設置**します。

